

## 大和川（奈良県、大阪府）

山口真緒

1. 大和川：奈良県と大阪府を流れて大阪湾に注いでいる一級水系の本流。

2. 1月3日の昼頃に大和川に行きました。ここ最近は天気がよく、家族で川に遊びに来ている人たちも見受けられました。そして、大和川は流れが穏やかで落ち着いていました。しかし、よく観察すると川は濁っていて、魚も見ることができませんでした。久しぶりに帰ってきて、この様な大和川を見てとてもショックを受けました。やはり、まだ父の幼かったころのきれいな大和川に戻るのはもっと先になりそうです。



3. 私が大和川と深く関わったのは、小学校5年生の時に文化発表会で大和川の付け替えについて劇を交えての発表でした。その劇の中で、幕府や庄屋や役人などを通して、大和川の付け替えが完成するまでの経緯を演じました。私自身は村人役をしたのですが、付け替え賛成派として訴えました。当時は、大和川についての詳しい知識はなかったので、先生が考えてくださった原稿を暗記して覚えただけでした。しかし、実際の大和川の写真や付け替え前と後の図を描いたりしたので、重要なところは、しっかりと覚えています。そして、これが私の大和川という川の存在を意識するきっかけとなりました。

また、私の祖父母が大阪府堺市に住んでいるのですが、家族で祖父母の家に行く時に必ず大和川を越える時にいつも感じていたことは、“汚れている”、“ゴミがいっぱい浮いている”など、良い印象では決してありませんでした。一度、鯉のような魚が泳いでいるのを見ましたが、こんな汚い川に生き物がいることに驚きました。また、小さい頃によく川の畔で遊んでいたのですが、やはり汚かったので、水に入ったりはしませんでした。石投げをしたり、若しくは近くの草むらで虫取りをしたりするくらいでした。なので、直接川の水に触れるということは一度もありませんでした。

4. 父に話を聞きました。1960年頃は川もそんなに汚れておらずみんな川で魚を捕

ったり、泳いだり水遊びをしていました。しかし、70年代以降になると、上流の松原市などから汚水や生活排水がそのまま流され川が次第に汚くなってきました。そのうち工場排水なども流されてきて、水質がますます悪くなりついに全国の河川の最下位の汚れた川になり、魚も住むことができないうらいになってしまいました。それに、悪臭も漂うようになって川で誰も遊ばなくなりました。

しかし、公害対策の社会整備も整い徐々に川もきれいになってきています。水質汚濁の全国基準もクリアし魚も戻ってきつつあるのが現状です。

かつて、この川を遡って30km程ジョギングをしながら奈良の王寺まで走った思い出があります。途中でこの川は石川と合流しその辺りでは川原でキャンプをしている家族が多く見られたりして、大和川のまた違う一面を発見したようでした。また、7・8年前に25kmウォークで大和川の橋を渡ったとき、橋の上から何気なく川を見下ろした時、数十匹の体長30センチ以上はある魚（鯉？）が泳いでいるのを発見した時は驚きました。大和川は小さい頃から親しみのある川だったので、昔のようにきれいな川に戻って、子どもたちが一日でも早くそこで遊べるようになってほしいと願っています。

5. 大和川は、大和高原及び笠置山地に発し奈良盆地中央部を西流しつつ盆地所流を集め、県境の峡谷を抜け大阪平野に出て大阪南港で大阪湾に注ぐ、全長68km、領域面積1070平方km、流域人口約200万人で、大和川水系一級河川とされています。

しかし、大和川は奈良県から大阪府へ抜ける峡谷が「亀の瀬」と呼ばれていて地滑り多発地帯で、関西本線や国道25号が過去に度々被害を受けました。また、流域の奈良県などで下水道普及が遅れているなどの原因で、日本で最も水質が悪い河川です。しかし、現在は以前と比べて水質が大幅に改善されており、環境省の水質基準も満たしています。

そして、大和川流域の河内平野は昔、度々氾濫の被害にあっていたため、洪水防止や農業開発の目的として流路を西へ付け替えるという工事が実際に行われていたのですが、色々な障害に阻まれ、途中で挫折してしまっていました。そんな時、東大阪の米村の庄屋、中甚兵衛が現れ幕府に何度も請願し続けました。一方、新しい川の流路となる村々からも付け替え反対の請願が起ったのですが、1704年に付け替え工事が行われ、8ヶ月で大和川は現在のように堺に向け西流するようになりました。

その後、大和川の旧流路では河川敷の跡地や大きな池の跡地が新田になり、木綿栽培や綿業が盛んになりました。そして、明治には大阪や奈良に近代的な紡績工場ができ、また河内には近代的な工場ができました。一方、新しい大和川の通った所は多くの農地を失った上、元あった川が新しい川に分断されて、大和川手前で水

が溢れたり、水量が減ったりと困窮する結果となりました。

戦後の急速な経済発展と工場や宅地の開発が進み、大和川流域でも急激な都市化を広げる一方、大和川は流域の排水路と化し河川環境が悪化しました。そのため、川の水は初め上水として利用されていましたが、水質悪化のために取水を止めました。災害に関しては、戦後に治水事業の強化によって台風などによる洪水の被害は少なくなりました。

6. 今回私が見た大和川は泣いているように見えました。川は濁っていて、魚もおらず寂しそうに流れているかのように見えました。

大和川は私の家から一番近い（車で30分くらいの）川なのですが、川の水が汚いということでそこで遊んだことは一度もありませんでした。それどころか、川の近くで遊んだこともありませんでした。しかし、私の祖父母が堺市に住んでいるので、いつも家族と車で祖父母の家を訪れる時に、大和川の橋を渡って行っていました。私はいつもこの川で遊べたらいいのにと、残念な気持ちで通り過ぎていました。

そして、ある日大和川が日本で一番汚い川だということを聞きとてもショックを受けました。確かに、私がいつも見ていた大和川はゴミが捨てられていて、水も澄んでいなく、魚もいるとは思えないくらいの「汚い」川でした。

しかし、それから5・6年くらい経ってふと川を眺めた時に何か動く物体が見えて、よく見てみると魚が泳いでいる姿でした。私はそれを見てとても感動しました。私は、「川」と聞くと澄んだ水に魚が泳いでいて、そこで子どもたちが水遊びをしているような状態を想像します。なので、大和川がこの様な状態に近づいてきたことが本当に嬉しかったです。

近年は、工業技術などがどんどん発達してきて、私たちの生活が益々豊かになってきている一方、産業廃棄物などで川の汚染が問題になっています。自然の川に元々住んでいた生き物たちを、人間が自分たちの都合で利用して破壊していたという事実は本当に悲しいです。実際、今の大和川を見ても人々に昔愛されていた「大和川」とは全くかけ離れているように感じられました。以前に比べてごみも捨てられて、水も汚れていて川に対する人々の意識が薄れてきているのが表れているのが分りました。

しかし、最近は環境保護法や公害対策基本法など自然に対する人の意識も変わってきています。私は、これを機に大和川がどんどんきれいになってほしいと思います。そして、一日でも早くきれいな自然に近い状態になって、近所の子どもたちの遊び場として、また、上水となって人々に共有される存在であってほしいと思います。



